

企業名	株式会社オキシキャリア	金融機関名	多摩信用金庫
-----	-------------	-------	--------

知財・事業の概要および知財ビジネス報告書作成の目的

製造業

上市・特許・ノウハウ

動物用人工赤血球製剤を開発する奈良県立医科大学発ベンチャー。特許や独自技術に基づく、先端バイオ技術の製品化を推進しており、動物医薬品としての承認取得やその後の主要動物病院での普及実現を目指している。
承認に向けた課題を整理するために知財ビジネス報告書の作成に取り組んだ。



オキシキャリア社のコア知財である動物用人工赤血球製剤

知財ビジネス報告書への記載概要

過去～現在 (As-Is)	知的財産（強み・壁）をいかにして生み出し、安定した事業に貢献しているかについてストーリー化する	奈良県立医科大学発ベンチャーとして、リポソーム型人工赤血球製剤を動物用に開発し、同大学とのクロスライセンス契約により強固な知財ポートフォリオを構築。コア特許と周辺技術、独自ノウハウを製造・応用の各工程に配置することで、代替困難な参入障壁と高い商品価値を実現。 現在は農水省承認に向けた臨床治験および製品化に注力しており、動物医療分野における明確なニーズと広範なネットワークが事業実装を支えている。 潜在的な市場規模を背景に、上市後の量産化を見据えた資金調達を含む持続的な成長可能性を有している。
現在～将来 (To-Be)	将来像の実現に向けた課題およびその解決の方向性（事業構想）を明確化する	承認取得に向けた臨床治験を進めるための資金調達を喫緊とし、製造がラボレベルにとどまり、量産化体制や原料供給網、GMP・薬事対応人材の不足、高コスト体質といった事業化上の制約を課題としている。 これらに対し、VC等を活用した資金調達戦略を明確化し、臨床治験から量産化までを見据えた財務基盤を強化。同時に、コア特許と製造ノウハウの管理を徹底し、競争優位性を維持しながら事業拡大を図る構想を整理している。
	将来像の実現に向けた実行計画をストーリー化する	上市後の実用・大量生産を見据え、製造プロセスや品質に関するノウハウ管理を中核とした知財戦略を具体化する。併せて、農水省承認後の迅速な立ち上げを想定した量産化体制を策定し、高品質・高安全性を安定的に供給できる基盤を整える。さらに、販売・市場開拓戦略を明確化し、主要動物病院での導入実績と学会発表等を通じて認知度と信頼性を高める。 これらの取り組みを黒字化に向けた数値計画と連動させ、持続的成長につながる事業モデルの確立を目指す。

作成を支援した機関名・氏名	デロイトトーマツ弁理士法人 嶋田 直人
---------------	---------------------

多摩信用金庫からの評価結果

知財ビジネス報告書 を通じて認識した強み	改めて認識した点	同社が開発する動物用人工赤血球は、血液型を問わず輸血可能で犬以外の異種動物にも適合性が高く、安全性・有効性を兼ね備えた高い商品価値を有する。また、全国動物病院の約80%と顧客ネットワークを構築しており、実用生産後の高い販売実現性が見込まれる
	新たに認識した点	同商品は、原料調達から納品に至る各工程において独自の特許権およびノウハウによる模倣品対策が講じられている。その結果、同社特許権と同等の効果を有する代替技術は現時点で確認されておらず、強固な参入障壁が構築されている
知財ビジネス報告書 を通じて認識した課題	改めて認識した点	動物用医薬品承認に向けた臨床試験には多額の資金が必要であり、実用生産まで約 円を要する。売上計上前かつビジネスモデル構築途上のため資金調達は容易ではなく、市場の将来性と販売・市場開拓戦略を明確にした事業計画の提示が求められる
	新たに認識した点	国内外での医薬品規制強化により、臨床試験や申請プロセスの遅延、規制対応コストの増加が想定され、事業計画に遅れが生じるリスクがある
将来のビジネス展開に向け金融機関としてサポートできる点	■ 補助金、助成金の情報提供および申請支援 ■ 連携企業とのマッチング支援 ■ 事業計画のブラッシュアップ支援	

オキシキャリア社からのコメント

知財ビジネス報告書の作成を通じて得られた新たな気づきがあったか	今回の分析はほぼ初めての取り組みであり、大変有意義な学びとなった。これまで自社視点での分析が中心だったが、第三者の視点による客観的な解析から多くの新たな気づきを得ることができた。特に環境分析は未経験だったため、課題の把握において非常に参考になった
知財ビジネス報告書をどう活用できそうか	今後の事業計画策定やプレゼンテーション資料等への活用